

特別支援学校を拠点とした障害者スポーツの振興

～障害者スポーツの振興と地域交流の推進～

千葉県立八日市場特別支援学校 電話 0479-72-2777

FAX 0479-73-6008

八日市場
特別支援学校



研究のポイント

特別支援学校を地域における障害者スポーツの振興拠点として、特別支援学校の児童生徒にとって、障害者スポーツを身近なものとするとともに、地域の小・中学校等との交流を深めることにより、障害者に対する理解を深めるための実践を行う。

■学校の概要

<http://www.chiba-c.ed.jp/yokaichiba-sh/>

昭和63年に開校した千葉県立八日市場特別支援学校(匝瑳市平木)は、今年で32年目を迎える知的障害の児童生徒を対象とした特別支援学校。昨年は「特別支援学校を拠点とした障害者スポーツ振興事業」を受け、地域への障害者スポーツ等の啓発を行った。

■研究課題

特別支援学校の児童生徒にとって障害者スポーツをより身近なものとするともに、スポーツをとおした地域との交流の推進により、障害のある人の社会参加や障害に対する理解を深める。

■研究の目的と方法

【目的】

- ・児童生徒にとって障害者スポーツを含めた、いろいろなスポーツを身近なものにするとともにスポーツを通じた地域との交流を推進する。
- ・障害者スポーツの理解啓発の推進及び障害当事者である児童生徒が卒業後も自分のことは自分の意志で決めて生きる力を身に付けていけるよう「障害者スポーツから生涯スポーツへ」発展させていくことをねらいとする。

【方法】

- ・「Ⅰ オリンピック・パラリンピック関連の授業を通じた競技体験や近隣小学校や大学生との交流」「Ⅱ アスリートによる生徒との交流」「Ⅲ 高等部卒業後の生涯スポーツを見据えた取り組み」「Ⅳ 教職員を対象としたパラリンピック競技の講習会」を柱として研究実践を行う。
- ・学校間交流会、職員研修会等の終了後に参加児童生徒や職員に対し、アンケートを実施し参加者の意識の変化を考察し、今後の活動に生かしていく。

■研究概要

1 実践と成果

- Ⅰ 校内での児童生徒を対象としたオリンピック・パラリンピック関連の授業を通じた競技体

験や近隣小学校や大学生との交流

(1) オリンピック、パラリンピック競技の体験(全体)

- ・小学部6年生がこれまで経験の無かったTスローを体育の授業で体験し、競技ルールを覚えてゲームを楽しむことができた。
- ・中学部では、適宜様々な場面でオリパラに関する内容を取り入れたことで、またやってみたいという気持ちをもつ生徒が増えた。また、オリジナルルールやチーム戦にすることで自分から取り組む姿勢や他者とかがわかる姿も多く見られた。今後は繰り返しができるように単元設定をすることが必要である。

(2) 近隣小学校とのTスローを通じた交流(中学部)

- ・交流会を行う前は、相手校の子どもたちがコミュニケーション面で不安を感じる子がいたが、2回の交流会を経て、次第に打ち解け合うことができた。更に交流の機会が増えれば、関係性が深まるが、両校のスケジュールを考えると定期的に交流会を確保することは難しいため、その時間をいかに調整し、確保するかが課題である。

(3) 県内の学生団体「おりがみ」との交流(中学部・高等部)

- ・コミュニケーションが苦手な生徒もいる中であったが回数を重ねるごとに学生たちと打ち解けて競技を行うことができた。また、学生の考えたオリジナル種目も楽しむことができ、うまくいったときにはお互いハイタッチをして喜び合う姿が見られ、本校生徒とおりがみの学生との距離が縮まった。
- ・きら祭(文化祭)では多くの方がポッチャを楽しむことができ、競技ルールも知ることができた。また、学生団体おりがみの活動を知ってもらう良い機会となった。

II アスリートによる生徒との交流

(1) 北総地区特別支援学校駅伝大会でのアスリートとの交流(柏原竜二氏)

- ・大会中は柏原さんから応援してもらうことで、たすき渡しのポイントまで頑張っている姿が見られた。大会後のエキシビションではランニングフォームや駅伝の楽しみ方(応援や会場の清掃)等を教えていただいたことで、走ることへの向上心やスポーツをやりたいという意識の向上につながった。

III 卒業後の生涯スポーツを見据えた取り組み(高等部)

(1) 障害者スポーツ大会出場に向けて

- ・学校体育から生涯スポーツという視点から希望生徒を募り、競技会に出場した。対外的な行事に参加することで色々な選手から刺激を受けることができた。また、卒業生も一緒に練習し、大会出場を目指して練習に取り組んだ。

IV 教職員を対象としたパラリンピック競技の講習会

(1) シットイングバレーボール講習会

- ・地域の小中学校・特別支援学校教職員に対し、東京パラリンピックの競技種目であるシットイングバレーボールの講習会を実施。実技を中心とした中で講師の方々からルールや技術指導をいただいたことで競技の楽しさを知り、研修会後の体育指導等に生かすことで指導のきっかけとなった。

2 今後の課題

- ・今年度も東京オリンピック・パラリンピックに向けて児童生徒が興味関心をもてるようにいろいろなスポーツに取り組める環境づくりを行ったが授業の継続性や様々な実態をもつ児童生徒への対応について考えていくことが必要である。
- ・次年度以降も地域や大学生との交流については日程や活動内容等お互いに検討して進めていきたい。また、卒業後も生涯スポーツとしての取り組めるように児童生徒への意識付けや学校として取り組める環境作りを考えたい。